

温室効果ガス排出量集計結果報告【令和4年度実績】

1. 基準年及び目標数値

平成29年度を基準年度と定め、令和元年度より5年間で**1%の削減**を目標とする

平成29年度（基準年度）

令和5年度（目標年度）

515,015.0 (kg-CO₂) → 509,865.0 (kg-CO₂)

2. 令和4年度（4年目）における温室効果ガス排出量

523,378.02 (kg-CO₂)【基準年度比：**1.6%増**】

※詳細別紙

3. 検証

令和4年度は、基準年（平成29年度）に比べ浄化センターは2.2%増、最終処分場は0.5%減となり、両施設を合算すると1.6%増という結果となった。

これは浄化センターのA重油と最終処分場の灯油の使用量が基準年よりも増加したことが一つの要因となっている。浄化センターでは汚泥処理に係る焼却炉運転が増えたことや、最終処分場での厳冬期における暖房使用が増えたことが今回の温室効果ガス排出量の増につながったとみられている。

4. 対策

浄化センター及び最終処分場に持ち込まれるし尿等やごみの搬入量により、その適正処理に係る機器の稼働状況も変動するため、単純な電気使用量の抑制は難しいが、日々の処理工程のなかで大容量モーターの集約運転（発停の頻度を減らす）や、無駄のない工程を見直していくなどの工夫をするなかで排出量を削減する努力を引き続き継続していく。そして、電気に次いで割合の高いA重油（ボイラ・焼却炉）や灯油（暖房等）の使用についても節約に努める。

また、全体の排出量の大きさにより埋もれてしまいがちなガソリンや軽油の使用量なども無駄がないか毎年見直し、環境整備作業（草刈りや除雪）の効率化など令和5年度の目標を達成するために向けて努力していく。